

# 11 説明的文章2 文章の展開に即して内容を読み取る

組		
番号		
氏名		

1 次は、寺田寅彦（一八七八年～一九三五年）が書いた文章です。これを読んで、問いに答えなさい。（一）から（四）は、段落の番号を表します。）  
【平成二十年度 全国学力・学習状況調査より】

一 ここに茶わんが一つあります。中には熱い湯がいっぱい入っています。ただそれだけでは何の面白みもなく不思議もないようですが、よく気をつけて見てみると、だんだんにいろいろの微細なことが目につき、さまざまの疑問が起こってくるはずです。ただ一杯のこの湯でも、自然の現象を観察し研究することの好きな人には、なかなか面白い見物です。

（中略）

二 湯気が上がるときにはいろいろの渦うずができます。これがまたよく見ているとなかなか面白いものです。線香の煙でも何でも、煙の出るところからいくらかの高さまではまっすぐに上りますが、それ以上は煙がゆらゆらして、いくつもの渦になり、それがだんだんに拡ひろがり入り乱れて、しまいに見えなくなってしまうです。茶わんの湯気などの場合だと、もう茶わんのすぐ上から大きな渦ができて、それがかなり早く回りながら上っていきま

三 これとよく似た渦で、もっと大きなのが庭の上注1なぞにできるところがあります。春先などのぼかぼか暖かい日には、前日雨でもふって土のしめっているところへ日光が当たって、そこから白い湯気が立つことがよくあります。そういうときによく気をつけて見ていてごらんください。湯気は、縁の下や垣根の隙間すきまから冷たい風が吹き込むたびに、横になびいてはまた立ち上ります。そして時々大きな渦ができ、それがちょうど竜巻のようなものになって、地面から注2何尺もある、高い柱の形になり、非常な速さで回転するのを見ることがあるでしょう。

四 茶わんの上や、庭先で起こる渦のようなもので、もっと大仕掛けなものがあります。それは雷雨のときに空中に起こっている大きな渦です。陸地の上のどこかの一地方が日光のために特別に温められると、そこだけは地面から蒸発する水蒸気が特に多くなります。

2 そういいう地方の傍そばに、割合に冷たい空気におおわれた地方がありま

すと、前に言った地方の、暖かい空気が上がっていくあとへ、入り代わりにまわりの冷たい空気が下から吹き込んできて、大きな渦ができます。そして注3電ひょうがふったり雷が鳴ったりします。

(注1) なぞII「など」に同じ。

(注2) 何尺II一尺は、約三〇・三センチメートル。

(注3) 電II主に積乱雲から雷雨に伴って降る、直径五ミリメートル以上の氷のかたまり。

① <sup>1</sup>湯気が上がる時にはいろいろの渦うずができます。とありますが、「茶わんの湯気」の渦の様子が書かれた一文を本文中から探し、**最初と最後の五字ずつ**を書きなさい。(句読点も一字に数えます。)

-----
-----
-----
-----

く

-----
-----
-----
-----

② <sup>2</sup>そういう地方とは、どのような地方ですか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

**条件1** 「日光」、「水蒸気」の二語を必ず使って書くこと。

**条件2** 「地方」で終わるように書くこと。

--

③ **二**段落か**四**段落までの展開の仕方について説明したものとして最も適切なものを、次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 話題を、抽象的なものから具体的なものに移しながら、文章を展開している。

イ 話題を、小さな現象から大きな現象へと移しながら、文章を展開している。

ウ 話題を、現象の観察から科学的な実験へと移しながら、文章を展開している。

エ 話題を、特殊なものから一般的なものに移しながら、文章を展開している。

--